



化学変化。
オカルト。
カワリ。

まちで学ぶ、「地域」×「学校」

「アオハル52」は島根県江津市にある県立高校3校が一緒に学校生活を楽しみ、学んでいく様子をお届けする情報誌です。今年度から江津高校、江津工業、江津清和養護の3校で“まちで学ぶ”を考えるチーム、“GO ▶ GOTSU コンソーシアム”が立ち上がり、それぞれの特徴を活かしたプロジェクトを行います。今回は、3校の先生方にまちで学ぶ、「地域」×「学校」

～生徒が地域と関わる学びについて～をテーマに各校のコメントを頂きました。まずは、各校の教員同士が、意見を交わし、お互いの学校についての理解を深めることから始めています。学校同士はもちろん、地域、企業と一緒にさまざまな「学び」「楽しみ」を作っていきたいと思っています。

「生徒」が「地域」と関わり、起こる“化学変化”

江津高校

「地域での学び」

地域に出ていくと明確な答えがなく、まっさらな状態からの学びとなるため、生徒が自ら考え、身につける力が必要になります。そこで、「こんなことをしたい」という漠然としたアイデアに対して、「どうなの？どうなの？」と問いかけイメージをはっきりさせ、周りの同級生と対話することで、生徒は自分の動きたい方向が明確になり、考えがまとまってきます。また、その考えをもって地域の方と関わることで、新しい見方の獲得につながると思っています。

さらに、地域との関わりの中で生徒の「得意」が見つかって、活かされていくこともあります。今後も色々な地域との繋がりを大切にしていきたいです。

江津工業

「地域に出て活動することの良さ」

地域に出て活動することの良いところは、答えのない問いに出会うこと、そこから実践的に学べるということです。生徒はまちを歩くだけでもワクワクしていますが、課題発見能力の向上や解決に向けた主体的な態度が身につきます。はじめは人見知りしますが、何回かまちに出ていくうちにしゃべれるようになり、コミュニケーション能力が上がっていくのを感じます。活動で大切なことは自分で考えさせることです。「なぜそれがあるの？」や「なぜ〇〇なの？」を問うことで論理的な考えやその思考を表現できるようになります。教師の側面から言えば、自身の知らないことでも生徒と共に学べることです。教室では私が情報(知識)を伝達する指導者となっていますが、地域活動ではそうではないこともあります。試行錯誤の連続です。また、企業を含めた「地域」の持つ力を活用することで教育力を高めることもできます。まちの人も暖かく受け入れてくれますし、コンパクトな江津を活かしてフットワーク軽く活動ができています。

江津清和

「地域との関わりで目指していること」

本校の児童生徒は、障がいのため日常生活の中でも活動範囲が狭く、様々な経験や体験をする機会が限られてしまいがちです。これまでの交流活動は、地域の方や他校の児童生徒の皆さんに来校して頂き、校内だけではできないことを学べる貴重な機会でした。

いろいろな人と出会い関わり合う機会を設定することは、自分の世界を拡げ自分の力を試し、伸ばすことにつながると考えます。さらに地域との関係を深めた教育活動を行うことで、自分の得意なことに気づき自信がもて、自分からやってみようとする主体性が育つことを願っています。

アオハル52生徒インタビュー

江津高校

幸治 尚貴くん(2年生)

1年のKAWARAプロジェクト(地域課題解決型学習)で知った江津の苔。苔には色々な活用法方法があるんだ!と。身近にあるものが人に必要とされていることに心を動かされました。「コミュニケーションが苦手なことを克服したい」と高校入学時から思っていたので、苔プロジェクトはチャレンジだと思って先生に相談しました。以前より人と話しやすくなったと思います。プロジェクトチームのみんなに「どう伝えればよいか」を考えるのは大変ですが、自分の経験値になっています。プロジェクトの中で「この人はこんな考え方をもってるんだ」と新しい発見にもなっています。



道山 和波さん(3年生)

2019年島根大学とJRの駅魅力化プロジェクト【駅de映画館】の活動に携わりました。イベントをつくりあげる大変さや、形になっていく面白さを体験しました。得たことは「視野が広がったこと」と「チャレンジする勇氣」。見方を変えると様々な考え方や価値観があり、1つの事でも色々な楽しみ方がありました。もともと積極的ではなく、挑戦することに不安がありましたが、振り返ったら自分の知識と経験になっていることに気づきました。

江津工業

佐々木 蘭夢さん(H30年度AE科卒)

在学中は、建築物の単体・集団を考えることでまちの活性化を目指すまちづくりの実践を行っていました。活動の中では、多くの地域・企業の方と触れ合う時間がありました。特に建物の改修作業後に行ったBBQでは火を起こすところから協力して行い、ヤキソバを一緒につくって食べたことが印象に残っています。

作業の中では塗装が楽しかったです。今は建築の施工管理をしています。その場面を見ると思い出します。校外に出て地域と関わる課題研究ができたからこそ、色々な人や多くの経験ができたと考えています。



AE3 まちづくり班

私たちは課題研究で江津本町に行き、ときわ印刷のリノベーションを行っています。本町に久しぶりに行った時、昔と比べて静かになった印象を受けました。賑わいを取り戻すため、人が集まる場所をつくり、まちを元気にしたいと思い参加しています。

また、7月には豪雨で被害に遭われた桜江町に行きました。みんなで協力しながら作業ができたこと、そして少しでも貢献できたことが本当にうれしかったです。

まだ活動をはじめて短いですが、校内ではできない体験から自身の考え方の幅が広がったと思います。これからもできることがあれば進んで地域に貢献したいと思いました。



江津清和養護

先日、江津高校、江津工業高校の皆さんが、アオハルの写真撮影のため本校に來校してくれました。一緒に写真を撮ったメンバーの感想を紹介します。

今年はコロナ渦の中、例年行っている江津高校吹奏楽部の皆さんとの交流演奏会も学校に直接来てもらうことはできませんでしたが、心のこもったメッセージビデオを作成して送ってもらい、校内でビデオ鑑賞会をしました。吹奏楽部の皆さん本当にありがとうございました。

違う学校の高校生に会うことができ、とても良かったです。もし、来年学園祭があれば、一緒に交流がしてみたいです。

違う学校の人達に会うのは、楽しいです。お互いの学校の取組を紹介したり、清和の他の学校と違うことを紹介したりしてみたいです。



久しぶりにあんなにテンションの高い人達に会えてうれしかったです。できれば、大人数で一緒に勉強がしてみたいです。